

2024 年度 南山大学人文学部日本文化学科
卒業論文

静岡県静岡市方言における可能表現

大倉七菜

指導教員

平子達也准教授

要 旨

静岡県静岡市方言における可能表現

大倉七菜

この論文の目的は、静岡中部方言における「可能表現」の現状を明らかにすることである。具体的には、「能力可能」と「状況可能」の区別に焦点を当て、異なる2つの世代の話者に対する調査結果を基に、当該方言における可能表現の現状を記述する。静岡中部方言において、これらの可能表現がどのように区別されているのかを明らかにすることが本論文の主な目的である。

静岡県中部地方の可能表現に関する研究は限られており、特に静岡市の方言調査は遅れているとされている。中條（1982）の研究によれば、静岡市を含む中部地方の方言研究は西部や東部に比べて進んでおらず、可能表現に関する情報も不足しているとされている。過去の研究からは、40年前には「エール」と「(ラ) レル」という異なる形式が使われていたことがわかっているが、その使い分けの詳細や時代の変化による影響については不明な点が多い。

本研究では、現在の静岡方言における可能表現の形式と世代間の違いを把握し、潜在可能や実現可能などの条件による表現の違いや、能力可能、状況可能、心情可能の使い分けを通じて現状を明らかにすることを目指す。また、世代差についても考察することが目的である。

目次

1.はじめに	1
2.先行研究と本研究で扱う問題.....	1
2.1 諸方言における可能表現について.....	2
2.2 静岡県の方言と静岡方言の可能表現.....	3
2.3 先行研究の問題点と本論の方針	4
3.調査方法、調査結果と分析	5
3.1 調査方法について	5
3.2 調査結果と考察	5
3.2.1 老年層話者の結果について.....	6
3.2.2 中年層話者の結果について.....	9
3.3 本節のまとめ.....	9
4.おわりに	10
【参考文献】	12
【付録：調査項目一覧】	12

1.はじめに

可能表現は、典型的には「能力可能」と「状況可能」に分けられる。この2つの意味は共通語では同じ形式で表されるが、多くの方言でそれぞれ別の形式でもって表現し分けられている（渋谷 2002:8）。たとえば、中條(1982; 1998)によると、静岡県では以下の(1)に示したように「可能の二種の用法『能力可能』と『状況可能』を言い分ける」という。

- (1) a. オラ ナンメーターデモ オヨゲール 「私は何メートルでも泳ぐことができる」
b. コノカー キタナクテ オヨガレネー 「この川は汚くて泳ぐことができない」
(中條 1982:63-64)

(1a) の場合は「主体内部に永続的に存在する能力的な条件によって可能・不可能を客観的に述べるもの」であり、これを「能力可能」と呼ぶ。一方、(1b) の場合は「主体外部の条件による可能・不可能を述べるもの」であり、これを「状況可能」と呼ぶ渋谷(2002: 9-10)。

諸方言における可能表現に関する研究は渋谷の研究など複数存在し、静岡県中部地方方言（以下、静岡中部方言）の可能表現についての研究もいくつか存在する。しかし、静岡中部方言における可能表現については、能力可能と状況可能の区別がある、ということ以外には詳細な記述がない。また、それらの研究も40年以上前のものであり、現在ではその区別が失われている可能性もある。

この論文の目的は、静岡中部方言における「可能表現」の現状を明らかにすることである。より具体的に言えば、静岡中部方言における「能力可能」と「状況可能」の区別を中心に、異なる2つの世代の話者に対して行った調査の結果をもとにして、当該方言における可能表現の現状を明らかにすることを目指す。すなわち、静岡中部方言において、「能力可能」と「状況可能」は区別されているのか、区別されているとして、それはどのように区別されているのかを明らかにするのが本論文の目的である。

以下、2節では、静岡県の方言と可能表現の概要及び先行研究についてまとめる。3節では調査方法から調査結果のまとめと分析・考察を述べる。最後に4節で全体のまとめを行う。

2.先行研究と本研究で扱う問題

本節では、まず、本論文で対象となる可能表現に関する先行研究として、渋谷(2002)を紹介する。渋谷(2002)は、諸方言における可能表現に関する通方言的なまとめであると

もに、可能表現について調査する際に注目すべきポイントなどをまとめたものである。続いて、本論文で対象となる静岡方言の概要と静岡方言における可能表現に関する先行研究を取り上げる。その上で、本論文で明らかにしようとする問題を明確にする。

2.1 諸方言における可能表現について

本論文では、静岡中部方言における可能表現を取り扱う。ここでは、諸方言における可能表現に関する通方言的なまとめであり、可能表現について調査する際に注目すべきポイントなどをまとめた渋谷（2002）の内容をまとめる。

渋谷は、可能文のもつ特徴的な形式を明らかにすることを目的とすると、注目される点の一つに、「可能の意味の下位分類とそれを表しわけの複数の可能形式」があるとする。その際、典型とされる可能の意味は、「能力可能」「状況可能」の2つである（渋谷 2002: 9-10）。

また、渋谷(2002)は、可能の意味について調査を行う際には、可能であることの条件を問う「能力可能」と「状況可能」という分類に加えて、「潜在」か「実現」かという違いにも注意すべきだと述べる。以下、この順番にやや詳しく見る。

① 可能であることの条件

- (2) a. 恥ずかしいから行けない
- b. 体力がないから行けない
- c. 今日は気分が悪くて行けない
- d. 忙しくて行けない

(2a-d)に含まれる「行けない」という表現は、いずれも「行くことができない」という不可能を表す表現である。しかし、(2a-d)を比べると「行くことができない」理由（＝条件）が異なっていることがわかる。

(2a)の場合は、主体内部に永続的に存在する「恥ずかしい」という心情的な条件によって可能・不可能であることを主観的に述べている。このように、性格や気持ち、勇気など心情的な条件によって動作の可能・不可能を述べる場合を「心情可能」という。

(2b)は主体内部に永続的に存在する能力的な条件によって可能・不可能を客観的に述べるものである。これを「能力可能」という。

(2c)と(2d)とは、どちらも一時的な条件あるいは状況によって「行くことができない」ことを述べている。このうち(2c)の場合は、主体内部の病気や気分などの一時的な条件によって可能・不可能であることを述べるものである。これを「内的条件可能」と呼ぶ。これに対して、(2d)の場合は、「主体外部の条件による可能・不可能を述べるもの」であり、これを「状況(外的条件)可能」という。

既に述べたとおり、日本語諸方言の中には「能力可能」と「状況可能」とで異なる形式を用いるものがあり、本論文で対象とする静岡中部方言においても「能力可能」と「状況可能」とで異なる形式を用いることが分かっている。しかし、心情可能や内的条件可能の場合に、どのような形式が用いられるかについては明らかではない。

② 潜在か実現（完遂）か

- (3) a. きょうは気分がいいから何時間でも泳げるよ。なんなら 10 時間泳いでみせようか
b. 途中までは走ったが、最後までは走れなかった。

(3a)の「泳げる」は、「泳ぐ」という動作の実現の可・不可について、その動作を行う力や条件がそろっているかどうかだけを述べるものであり、実際に「泳ぐ」という動作が実現するか否かについては問題にしていない。このような動作を行う力や条件がそろっているかどうかだけを述べるものを「潜在可能」という。この場合、基本的に動作の発動は、確実に行われるものとして予定（過去の場合、実現）されているわけではない。

これに対して、(3b)の「走れなかった」は、「走る」という動作が実際には実現しなかったという動作の実現の有無についても述べている。このような動作の発動が予定されているか（未来）、実際に発動されている（過去・現在）ものについて述べるものを「実現可能」という。

渋谷によれば、潜在可能については、「可能であることの条件」によって異なった形式が使われる方言があることがわかっているが、実現可能についても同様に、「可能であることの条件」によって違った形式が使われることがあるかどうかは、まだ十分にはわかっていない(渋谷 2002: 11)。方言によっては、静岡方言でも同様に、これらの潜在・実現可能の中で、「可能であることの条件」による形式の使い分けが異なる可能性があり、本調査でも調査の観点として組み込んだ。

2.2 静岡県の方言と静岡方言の可能表現

静岡県は、旧伊豆・駿河・遠江の三国が合わさってできているため、面積も広く方言も変化に富み複雑である。中條(1982:1)は、以下のように述べている。

東海道に沿って東西に長く広がる静岡県内には、日本の東西方言対立の文法上の指標とされる否定の助動詞ナイとン、命令の活用語尾口とヨ、進行態のイルとオルなどの等語線が南北に走っている。また語彙の面でも東西二大対立型の分布を示す「塩辛い」「あさっての翌日」、「くすり指」などの語形の境界が新潟県糸魚川と浜名湖を結ぶ線の付近にあたることが多い。このため県内では東部から西へ進むにつれて、西

部方言的な色彩が少しずつ加わる。つまり、静岡県言は東西両方言が接触する漸移地帯としての性格を持っており、それを反映して内部での地域差はかなり目立つ。

本稿で言う中部地方とは、下の地図の静岡市を中心とした地域のことである。



(出典：静岡県公式ホームページ)

静岡方言における可能表現の形について、中條(1982:65)は安倍川域で行った可能表現の調査から「静岡方言では能力可能にはエール、受容・許容可能(状況可能とも)には(ラ)レルという区別がみられた。受容可能と許容可能とは動作主体の能力・意志に無関係である。従って、静岡方言の可能表現は基本的には動作主体の能力・意志に関与するか否かで分化されているといえよう。」と述べている。また、渋谷(2002:8)の「各地方言における可能の分節状況(能力・状況)」を見ても、中部地方は能力可能「キエール」、状況可能「キレル」と示されている(意味はどちらも「着ることができる」)。

以上の先行研究から明らかになっているのは、静岡方言において、可能表現は大きく能力可能と状況可能とで表現が異なり、前者は「エール」、後者は「(ラ)レル」という形式が使われているということである。しかし、それ以上の詳細に関する記述はなく、例えば、潜在可能と実現可能とで使われる可能表現に違いがないかなどについては不明である。

2.3 先行研究の問題点と本論の方針

上述のように、静岡県中部地方の可能表現に関する研究はわずかながら存在するが、時間が経過しているものが多く、現状を把握することが難しい状況である。特に静岡市の方言調査について、中條(1982)は「これまでの調査は県西部遠州地方の方言を対象とする傾向が強い。一方、静岡市を含む県中部の方言研究は、西部や東部よりもかなり立ち遅れている。特に静岡市域の方言についての調査・研究はほとんどなされていない」としており、可能表現のみならず静岡市方言全般に不明な点が多いようである。

また、中條(1982)などの研究から、少なくとも40年ほど前には、静岡方言の可能表現は大きく能力可能と状況可能とで表現が異なり、前者は「エール」、後者は「(ラ)レル」とい

う形式が使われていたことがわかる。しかし、年齢差などの時代の移り変わりによって変化している可能性もあり、それらについては詳細は明らかではない。

そこで本研究では、現在の静岡方言において、可能表現として使われる形式について、世代にどのような違いがあるのか現状を把握し、明らかにすることを目指す。より具体的に言えば、潜在可能や実現可能などの条件による現れ方の違いや、能力可能と状況可能、心情可能の使い分けから可能表現を見ることで、現状を明らかにすることを目指す。また、それに加えて世代差について現状を把握することも目的としている。

3.調査方法、調査結果と分析

3.1 調査方法について

本論文で扱うデータは、2024 年 9 月 22、29 日に行った計 2 回の調査によって得たデータである。調査対象は静岡市在住の 50 代男性と 80 代男性の親子 2 名である。調査は調査票を用いた面接調査で、zoom を通してオンラインで行った。調査では、筆者が標準語で例文を発話し、調査協力者のお二人に例文を方言に翻訳し、発話していただくという形をとった。場合によっては、静岡方言で発話したあと、調査協力者にその表現が可能であるかを問うた上で、調査協力者に再度方言で発話してもらうという形をとった。

調査項目は、渋谷 (2002) の調査項目一覧から選択した。内訳としては能力可能が 16 個、状況可能が 12 個、心情可能が 2 個である。また、潜在可能と実現可能の内訳は潜在可能が 14 個、実現可能が 16 個となっている。

<調査の際に注目したポイント>

- a. 能力可能、状況可能で使われる可能表現の形式が異なるか。また、これら以外の可能表現（心情可能）はどのように位置づけられるか
- b. 潜在可能か実現可能かによって、可能表現の表れ方に違いは出るか
- c. 年齢による違いはあるか

3.2 調査結果と考察

下の表 1 と表 2 は、左から、それぞれの例文において当該の可能表現について、話者の方が、「エールを使って答えた数」、「レル・ラレルを使って答えた数」、「その他の可能動詞を使って答えた数」を示している。能力可能を例とすると、「エール」形を用いて回答した文が 7 つ、「レル・ラレル」形を用いた文は 2 つ、その他の「どちらにも当てはまらない」に分類される回答は 8 つあったという見かたとなる。

中でも特に明確な使い分けがあると思われるものについては、さらに下の表にまとめて

いる。静岡方言で発話された後、調査協力者にその表現が可能であるか確認した際に、「この表現については特に積極的に使う・使わない」と回答した数を表している。

潜在可能と実現可能については、調査結果から「可能であることの条件」による形式の違いや、潜在・実現の違いはなかった。静岡方言については、潜在可能、実現可能を「可能であることの条件」によって区別しない方言であるといえる。

3.2.1 老年層話者の結果について

まず、80代の方の結果を見る。状況可能において「エール」形、「レル・ラレル」形どちらも使うという文が1¹文あったため、状況可能の文は11個であるが、合計12個という結果になっている。

表1 80代の方の回答

	エール	レル・ラレル	どちらにも当てはまらない
能力	7	2	8
状況	0(1)	6	5
心情	0	2	0

調査結果を見ると、能力可能は、「エール形」と「レル・ラレル形」の両方が区別なくどちらも使用されることが分かった。

- (4) a. 私は海で10メートル以上はモグレーナイ
b. 鳥は空をトベレル

調査を行う中で、エール形を使うと回答したものは「エール」、レル・ラレル形を使うものは「レル・ラレル」どちらにも当てはまらないその他の可能表現を、「どちらにも当てはまらない」の3つに分類している。

調査ででてきた形は以下の通りである。

● エール形

能力可能：「モグレーナイ、トベーナイ、カケール、ノボレーネーヤ、オヨゲーネー、キレーナイ、キレール」

状況可能：「ヨメール（「ヨメレル」も使用可能）」

¹ 調査項目 30

(5) a. ペンギンは空をトベーナイ

b. 練習しているけどまだ 100m 以上はオヨゲーネー

● レル・ラレル形

能力可能：「モグレネーツケヤ、モグレル、トベレル」

状況可能：「イケレナイ、アケレネーワ、オキレルラ、アケレル、カケレナイ、ヨメレル」

心情可能：「カケレナイ、カケレル」

(6) a. 今日は用事があるから郵便局にイケレナイ

b. (錆ついてあかないと言い張る相手に、ドアをあけながら) ほらアケレルヨ

● どちらにも当てはまらない

能力可能：「モグレタツケンネ、ハシレタツケエガ、イケタツケンネ、カケネーヤ、ウカンネーヤ」

状況可能：「デキルラ」

表 2 明確な使い分けがあったもの

	エールを積極的に使う	エールを使わない	レル・ラレルを積極的に使う	レル・ラレルを使わない
能力	4	4	0	0
状況	0(1)	8	5	0
心情	0	1	1	0

次に、「積極的に使う、使わない」と述べられたものについて内訳をまとめている。エールの使用について 18 個(内「どちらも使う」³が 1 つ)、レル・ラレル形については 6 個(内「どちらも使う」が 1 つ)である。調査の中ででてきた形は以下の通りである。

³ 「電燈が明るいので新聞を読むことができる」という例文で、調査時の意図としては「電灯が明るい」という外的な条件の下で読むことが可能であることを示す状況可能の例文として提示し、「ヨメレル」というレル・ラレル形が回答として得られた。ただし、「この明るさなら」という表現を前につけると「ヨメール」という形式が使用できるという回答であった。この場合、「この明るさ(＝一定以上の明るさ)」という外的な条件の下で読むことが可能であるという状況可能を表すもとれるが、「この明るさならば(私は目が良いので)新聞を読むことができる」という能力可能を表すものとして使われていた可能性もある。

- 積極的にエール形を使う

能力可能：「カケールヨ、キレーナイ、オヨゲーネー、キレールヨ」

状況可能：「ヨメール（「ヨメレル」も使用可能）」

- エール形は使わない

能力可能：「モグレネーツケヤ、ハシレナクナルラ、モグレル、トベレル、トケルラ」

状況可能：「イケレナイ、アケレネーワ、アケレル、ノボレナイツケヤ、アカンネーヤ、カケレーネー、ネレネエナ」

心情可能：「カケレナイ」

- レル・ラレル形を積極的に使う

状況可能：「イケレナイ、オキレルラ、アケレル、カケレーネー、ヨメレル（「ヨメール」でも使用可能）」

心情可能：「カケレル」

上記の表を見ると、能力可能については回答が分散しているものの、「エール」形が一番多く使用されている。(表1)先行研究で「能力可能はエール形である」とされていたため、「エール」形を使うという回答が「レル・ラレル」形よりも差をつけて多くなると予想していたが、積極的に「エール」形を使うと回答した数は、本来の予想よりも差が出なかった。(表2)今回の結果から、「エール形」を使うことで能力可能と判断することができるが、「レル・ラレル形」も能力可能で使うということが明らかになった。先行研究では、能力可能は「エール形」で、状況可能では「レル・ラレル形」を使うと述べられていたため、大きく違う結果が得られた。

一方、状況可能は、「レル・ラレル」形を一番多く使用するという回答が得られた。これは先行研究と同様の結果となった。さらに、能力可能の形とされている「エール」形は「使わない」と回答している数が多く、状況可能ではエール形を使わないことが分かった。どちらでも使うとした文が1文あったが、条件が加わることによって使える形になっていることから、本来は「レル・ラレル形」を使用するのが基本の形であると考えられる。つまり、「エールを使えば能力可能だということが分かる」ということである。状況可能では、「レル・ラレル」形を使用し、「エール」形を使わないという結果となった。

心情可能は「レル・ラレル」形を使うという結果となり、今回の調査では状況可能に近いという位置づけとなった。

この結果から、能力可能の回答は、結果に揺れがあるものの、状況可能についての結果を見ると、この年代の可能表現の方言の形として能力可能では「エール」形、状況可能では「レル・ラレル」形を用いるという能力可能と状況可能についての使い分けがあると言える。

3.2.2 中年層話者の結果について

次に 50 代の方の回答である。80 代の方とは大きく異なる回答であり、能力可能、状況可能、心情可能のほぼ全てが伸ばす形の「エール」形で使用できるという結果となった。そして、「レル・ラレル」形に関しては、ほとんど使わないということが分かった。可能の意味や時制、人称といった条件に全く関係なく一貫した回答であった。また、「エール」形は使わないと回答した 3 文に関しても、時制は過去、現在、未来であり、条件も能力、外的条件が 2 つと共通点がない。伸ばさない形と回答を得た文に関しても、条件による使い分けは見られなかった。

50 代の方の回答

	エール	レル・ラレル	どちらにも当てはまらない
能力	16	0	1
状況	9	1	1
心情	2	0	0

このことから、日常的に能力可能と状況可能を使い分けているとは考えにくい。年齢差や時間の経過によって、可能表現の使い分けがなくなったと考えられる。

3.3 本節のまとめ

今回の調査から、静岡方言の可能表現の現状として今現在も能力可能と状況可能の使い分けは存在しているという結果が得られた。しかし、使い分けが見られるのは年齢が高い人に限り、中年層では可能の意味に関わらず可能表現の使い分けは見られなかった。以上の結果を踏まえて、調査の際に注目したポイントを振り返る。

まず、「a. 能力可能、状況可能で使われる可能表現の形式が異なるか。また、これら以外の可能表現はどのように位置づけられるか」という問いに対しては、能力可能と状況可能とで使われる可能表現の形式は異なるといえる。ただし、これは老年層に限ったことであり、中年層話者の結果には使い分けが見られない。

老年層における使い分けは、先行研究での指摘通り、能力可能では「エール形」が用いられ、状況可能は「レル・ラレル形」が使われるが、「レル・ラレル形」は必ずしも状況可能専用の形式ではなく、能力可能を表すのにも使われる（=7a-c）。つまり、先行研究で示されていたような「エール＝能力可能」「レル・ラレル＝状況可能」という形ではなく、能力可能では「エール形」「レル・ラレル形」どちらも使うことができ、状況可能では「レル・ラレル形」を使用するという結果が得られた。

また、心情可能については、(7d)は「カケレナイ」、(7e)は「カケレル」という結果とな

って、どちらも「レル・ラレル形」を使うという回答が得られた。このことから、静岡中部方言においては、「能力可能」対「心情可能・状況可能」という対立になっていると考えられる。

- (7) a. 「私は海で 10 メートル以上はモグレネーツケヤ」(能力可能／レル・ラレル形)
- b. 「うちの子は(もう)一人で着物をキレール」(能力可能／エール形)
- c. 「目覚まし時計があるので早くオキレルラ」(状況可能)
- d. 「ラブレターなんてはずかしくてカケレナイ」(心情可能)
- e. 「度胸があるからラブレターでもカケレル」(心情可能)

次に「b. 時制や人称、あるいは、潜在可能か実現可能かによって、可能表現の表れ方に違いは出るか」という点については、大きな違いは見られなかった⁴。よって、b は「その他の時制や、人称では可能表現の違いによって違いは出ない」とまとめることができる。

最後に、「c. 年齢による違いはあるか」という点については、既に述べたとおり老年層の話者は、エール形とレル・ラレル形とを使い分けている一方で、中年層話者は、「エール形」「レル・ラレル形」の使い分けが無く、一貫してエール形を使用する。つまり、世代によって可能表現の形式とその使い分けに違いがあると言える。

4. おわりに

本論文では、静岡県静岡市方言の可能表現について記述した。それをまとめると次のようになる。

- (8) 本論文で明らかにしたこと
- a. 能力可能、状況可能で使われる可能表現の形式は異なる。また、これら以外の可能表現(心情可能)は状況可能に近い位置付けである。
- b. 条件によって、可能表現の表れ方に大きな違いは出ない。
- c. 年齢による違いはある。

以上のことを明らかにした。

⁴ 過去形のみ全ての文で「～ツケンネ」「～ツケヤ」という独自の形があることが分かった。過去のことを表す際に用いる形式であり、(4a)のように「やろうとしたけどできなかった」「昔はできたけど今はできない」という意味で使う。

静岡市方言の可能表現の使い分けについて、中條(1998)は能力可能は「エール形」、状況可能では「レル・ラレル形」を使用するとしていたが、今回の結果から、少なくとも老年層においては、能力可能は「エール形」「レル・ラレル形」どちらも使用し、状況可能では「レル・ラレル形」を使用するということが明らかになった。

このような差が生じた理由には様々な可能性が考えられるが、1つの可能性として、状況可能専用の形式だった「レル・ラレル形」の使用できる範囲が拡大するという変化が起こったことが考えられる。この変化が進行すれば、今後能力可能・状況可能ともにレル・ラレル形に統一される可能性がある。

一方で、今回行った中年層の世代では、能力可能と状況可能の使い分けを失っているものの、その場合に中年層話者は、どのような場合であっても基本的に「エール形」を用いると回答していた。これは、上で中條の記述と今回の老年層話者のデータにもとづく予測に反するものである。つまり、上述の予測が正しいとすれば、中年層の世代で能力可能と状況可能の区別が失われていたとしても、それはどのような場合でもレル・ラレル形を用いる、と言う形での区別の消失であると考えられるが、実際はそうではない。

おそらく、静岡市方言の中年層話者においては「エール形」と「レル・ラレル形」の使い分けが衰退し、その区別が曖昧になっていて、調査においてはより方言的な形式として意識的に「エール形」を用いて回答して下さった可能性もある。この点については、今後の課題としたい。

いずれにしても、時代の移り変わりとともに、このような能力可能と状況可能の区別が失われていく傾向は今後さらに強まると考えられる。今後、可能表現の形式自体は残り続けるものの、使い分けの分類は次第に失われていくと予想される。

【参考文献】

渋谷勝己(2002)「可能 A.解説」『方言文法調査法ガイドブック』(科研報告書) pp.7-12

中條修(1982)『静岡方言の研究』吉見書店 pp.1-65

中條修(1998)「5 静岡県の方言」『講座方言学 6 -中部地方の方言-』国書刊行会 pp.141-176

【付録：調査項目一覧】

● 潜在可能：現在否定

能力

1. 私は海で 10 メートル以上はもぐることができない
2. ペンギンは空を飛ぶことができない

外的条件

3. 今は用事があるから郵便局に行くことができない
4. 鍵をなくしたのであけることができない

過去

5. 私は海で 10 メートル以上はもぐることができなかった

● 潜在可能：未来否定

能力

6. 太郎はあと 10 年もすればそんなに早くは走れなくなる

外的条件

7. 明日は用事があるから郵便局に行くことができない

● 潜在可能：現在肯定

能力

8. 私は海で 10 メートル以上もぐることができる
9. 鳥は空を飛ぶことができる

外的条件

10. 目覚し時計があるので早く起きることができる

過去

11. 以前は海で 10 メートル以上もぐることができたのに

● 実現可能：過去肯定

能力

12. きのうも 100 メートル 10 秒で走ることができた

外的条件

13. きのうは天気がよくて、頂上まで行くことができた

● 実現可能：現在肯定

能力

14. (自分にはむずかしい字は書けないと言う相手に対して目の前で書いてみせながら)
ほら書くことができるよ

外的条件

15. (錆ついてあかないと言い張る相手に、ドアをあけながら) ほらあけることができるよ

● 実現可能：未来肯定

能力

16. あれだけ勉強したんだから、明日は絶対試験に合格することができる

外的条件

17. いまインクを取り替えたから、明日中に全部印刷することができる

● 実現可能：過去否定

能力

18. きのうちあの山に登ろうとして途中まで行ってみたけど、体力がなくて頂上までは行くことができなかった

外的条件

19. きのうちあの山に登ろうとして途中まで行ってみたけど、崖が崩れていて頂上までは行くことができなかった

● 実現可能：現在否定

能力

20. (むずかしい字を書こうとして途中まで書きながら) どうもうまく書くことができない

外的条件

21. (錆ついてあかないドアをあけようと試みて) あけることができないよ

● 実現可能：未来否定

能力

22. この3年間あまり勉強しなかったから、明日はまちがいなく試験に合格することができない

外的条件

23. 原稿用紙がなくなったから、夜までには論文を書き上げることができない

● 潜在可能：現在否定

心情

24. ラブレターなんてはずかしくて書くことができない

能力

25. 練習しているけどまだ 100m 以上は泳ぐことはできない

26. うちの子はまだ一人で着物を着ることができない

外的条件

27. 忙しくて 10 時前にはなかなか寝ることができない

● 潜在可能：現在肯定

心情

28. 度胸があるからラブレターでも書くことができる

能力

29. うちの子は(もう)一人で着物を着ることができる

外的条件

30. 電燈が明るいので新聞を読むことができる